

オピニオンが掲載されました

荇坂達文

先日私のオピニオンが新聞に掲載されました。拙い私見ですが、内容をご紹介します。

ただし、本文中で私が扱い業種を16号のみの表現で止めていたのを、新聞社が具体的に()の部分を加筆してくれたのですが、その扱い職種が間違っていたのが少し残念です。これも頻繁に行われる労働法令の変更が原因で今年4月に業種番号が変更されたばかりなので、新聞社は3月以前の古い法規を見て記載してしまったようです。

因みに私が扱っているのは広告デザイン関係の職種で元は20号で今年から16号に変更されています。

いずれにしても持論を広く世論にアピールできたことは大変嬉しく、またご褒美に3,000円の図書券まで頂きました。

戦後の混乱期、「墮落論」で一躍人気作家となった坂口安吾は、戦争放棄の憲法九条を高く評価していました。それは今の時代状況にも通じる明察です。

坂口安吾は、一九〇六(明治三十九)年のきのう十月二十日、新潟市に生まれました。今年は生誕百七年に当たります。

東洋大学印度哲学科卒業後、作家の道を進み始めます。文壇では高い評価を得ていましたが、世評的には不遇の時代が続きます。

一変するのは戦後です。四六(昭和二十一年)、「新潮」に掲載された「墮落論」でした。

本質見抜く洞察力

戦争は終わった。特攻隊の勇士はすでに闖虜となり、未亡人はすでに新たな面影によって胸を

東 京 商 界 新聞

会社経営 荇坂 達文 64
(東京都八王子市)

改正した現行法施行からわずか一年余りで、労働者派遣法の改正が、労働政策審議会で議論されています。

私は単なるアンチ政府ではありませんが、議論の中で、専門性のある二十六業種の完全撤廃には反対です。本紙二日付「生活図鑑」で、派遣法改正の特集があり、興味深く読みました。

今回の改正ポイント

が、長期派遣者の正社員化になっているため、焦りつつあるのは、製造業などで点がボケがちです。しか、雇用調整のために、派遣し、生活図鑑の記事に「派遣は本来短期契約で、労働者にとっては当然だとなかったか」という問題提起がありました。まさ、現在、私が扱っている

実情考えぬ労働政策

にその通りです。業種は、二十六業種の十六号(案内・受付、駐車遣を許可したことが、現場管理)ですが、その大遣に伴う、さまざまな間、半が数週間、数力月の契題を拡大した大きな要因です。

だと考えています。アン、もし改正で、長期雇用のケートなどで、多くの派、者の社員化と抱き合わせ

遣社員が正社員を望むとで二十六業種が完全撤廃化になっているため、焦りつつあるのは、製造業などで点がボケがちです。しか、雇用調整のために、派遣し、生活図鑑の記事に「派遣は本来短期契約で、労働者にとっては当然だとなかったか」という問題提起がありました。まさ、現在、私が扱っている

遣社員が正社員を望むとで二十六業種が完全撤廃化になっているため、焦りつつあるのは、製造業などで点がボケがちです。しか、雇用調整のために、派遣し、生活図鑑の記事に「派遣は本来短期契約で、労働者にとっては当然だとなかったか」という問題提起がありました。まさ、現在、私が扱っている

社説

2013・10・21

義士も聖女も墮落する。それを防ごうとはできないし、防ぐことによつて人を救うことはできない。人間は生き、人間は墮落する。そのこと以外の中に人間を救う便利な近道はない。

国家のために死ぬことは当然、日本人なら清く正しく生きなければならぬ、と教え込まれていた当時の人々にとつて、墮落こそ人間救済の道という逆説的な省察は衝撃的でもありました。本質を見抜く洞察力に貫かれたこの随筆を機に一躍、人気作家となります。

太平洋戦争の開戦時、安吾は三十五歳。年齢故に召に飛行機をつくれ。全集もされず、四四(同十九)年に、日本映画社の囑託となり、安吾の戦場は遠い戦地ではなく、幾度も空襲に見舞われ、降り

戦争放棄

代文学「墮落論(一)」

戦争放棄